

1・5・6年生 性の多様性について考える

～にじいろi-Ruさんとの出会い～(2/9)

「にじいろi-Ru」のいっぽさんとコンちゃんさんに来校いただき、「性の多様性」について考えました。

「にじいろi-Ru」さんの「にじいろ」は、多様性を表しています。「i」は「わたし」「じぶん」を表す「I(アイ)」を表

ています。ひとりひとり、誰もがたったひとりの大切な「じぶん」ということです。「i-Ru」は「いる」を表しています。「いるのにいないものにしないで！そこにいるよ！ここにいるよ！」という思いが込められています。



授業は、上のような「ともだち」の紹介から始まりました。子どもたちは、まず、一人目の「ボクは、お母さんとお母さんとボクとの3人家族です。」に対して、さまざまなつぶやきを返しました。1年生と高学年では、つぶやきの内容は異なりましたが、いっぽさんは、そうした子どもたちのつぶやきを一つずつ丁寧に受け取り、「どうしてそう思うの？」と子どもに返しなが

れまで誰にも言えなかった自分のセクシュアリティについて、自然にコンちゃんに話をしたそうです。いっぽさんは、「この人は絶対に相手を否定したり、排除したりしないと思えたからこそ、自分のことを話せたんだと思います。」と話されました。また、「友だちのことを知っているつもりでも、知らないことはいっぱいある。自分のことを知ってもらいたいと同じように、友だちのことももっと知ろうしてほしい。」とも話されました。

今回の話は、「性の多様性」ということにとどまらず、「自分がどのように生きていくかは、まわりの人が勝手に決めることはできない。自分で決めていいんだよ。」というメッセージも込められたものだったと感じています。



4年生 理科「水の温まり方」(2/9)

理科の面白さは、何と言っても、実際の体験を通して学ぶことができるということです。

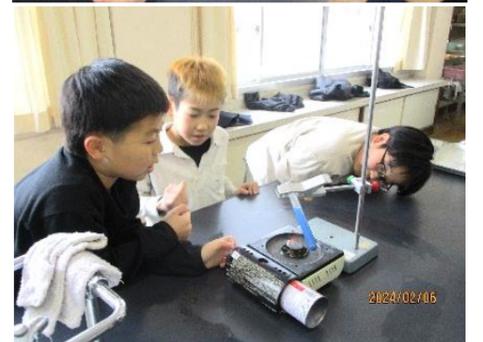
今、4年生では、「もののあたたまり方」について学習しています。これまでに、金属のあたたまり方を学習してきており、今回は、水のあたたまり方を、実験を通して確かめました。

こうした実験で難しいのは、「どのように温まっていくのかを、どうやって子どもたちにとらえさせるか」ということです。

昔、金属はどのように熱が伝わっていくかを確かめさせるために、大きな鉄板のいろんなところに小さな円になるようにホットケーキの液体を乗せて、どの順番で焼けていくかを確かめさせたことがあります。しかし、そのうちに「サーモテープ」という、熱によって色が変わる画期的なテープが開発されました。今回も、「サーモインク」という、熱で色が変わるインクを用いた実験でした。

日常生活の中の事象を科学的な視点で捉えさせるという点では、前者の方が優れていたように思いますが、現象をはっきりとらえさせるには後者の方が子どもたちにはわかりやすいように思いました。白黒の写真ではわかりませんが、今回の実験でも、サーモインクを入れた青い水が、熱により、ピンク色に変わっていく様子が大変分かりやすく観察することができました。

最近、理科離れの子どものが増えてきたと言われていたようですが、こうした実験を通して、子どもたちに理科の面白さを伝えていければと考えています。



16日(金)は、授業参観日です。1年間の子どもの成長をご覧ください。

5限目 13時50分から14時35分 学級懇談 14時45分から15時45分